

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4073500318
法人名	社会福祉法人慈愛会
事業所名	グループホーム富の里
所在地	福岡県前原市大字富508番地の4 (電話) 092-324-9333

評価機関名	福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	20年 12月 11日
評価確定日	21年 1月 23日

【情報提供票より】 (平成20年11月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年 6月 1日
ユニット数	2 ユニット
利用定員数計	18 人
職員数	15 人
常勤	9人
非常勤	6人
常勤換算	6.7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	3階建ての ~ 1.2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	8,500 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,800 円		

(4) 利用者の概要 (平成20年11月10日現在)

利用者人数	18名	男性	6名	女性	12名
要介護1	4名	要介護2	5名		
要介護3	5名	要介護4	4名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 85歳	最低	75歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	今津赤十字病院
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

新興住宅が隣立する丘陵地に建てられた事業所は、1・2階がグループホーム、地域交流ホール、3階が生活支援ハウスになっている。同一敷地内に法人が運営する介護老人福祉施設、デイサービス、居宅介護支援事業所等を併設し、事業所間は廊下で繋がり行き来ができるようになっており、法人内で連携が図られ、緊急時等の応援体制がある。利用者一人ひとりを大切な存在として尊重し、心のふれあいを大切にするという理念を日々のケアに浸透させるよう心掛け、利用者を選択していただくサービスの一つとしての事業所づくりを行っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	「近隣住民との付き合い」「災害対策」「重度化への対策」等前回評価の改善点を改善計画シートにして、管理者・職員は会議等で話し合いながら取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	全職員一人ひとりが自己評価を行った後に、管理者が集約し、会議を行いながら共有化・意識化を図り、作成している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を定期的に開催し、現状や行事等今後の活動計画及び外部評価等を報告して、委員から意見や要望を聴取するように努めている。防災マップや外出マップ作製、地域貢献への提案等の意見を得て、サービス向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	来訪時の声かけや運営推進会議等で、意見・要望をいただく機会を設けている。第三者相談窓口については玄関に連絡先を掲示しており、契約時等に説明を行っている。意見箱も玄関に設置している。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	夏祭りや菜園での収穫祭に地域住民の参加を呼びかけている。歌や菜園作り、マッサージ、楽器演奏等のボランティアや、専門学校生の実習受け入れ等を行っている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えているサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念に直接的には挙げていないが、理念に基づき作成する年間事業計画の中に「地域との交流に務める」というスローガンを掲げ、地域密着型の視点を盛り込んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は、理念に基づき、年間事業計画を作成して具体的なケアの実践に日々取り組んでいる。また朝礼や会議等において、理念の統一を全職員で図っている。		
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	不定期であるが事業所便りや法人便り等を回覧板で地域住民へ周知している。また、収穫祭や夏祭りの際、地域住民へ声かけを行い参加を得ている。菜園作り、マッサージ、音楽等のボランティア、保育園児や小学生の訪問、専門学校生の実習等の受け入れを行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員一人ひとりが自己評価を行い、その意見を管理者が集約し、更に会議を行って自己評価を作成している。前回の評価課題については、改善シートを作成し、近隣と付き合いを深める等して、管理者及び職員で改善に努めている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に行い、現状や行事等今後の活動計画及び外部評価等を報告して、委員から意見や要望を聴取するように努めている。防災マップや外出マップ作製、地域貢献への提案等の意見をj得て、サービス向上に活かしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>サービスの質の向上に必要な相談等、日常的に行政と連携を図っている。</p>		
7	10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>年間の研修計画の中に位置付け、職員に周知を図っており、出席できない職員に対しても資料を配布している。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の来訪時に暮らしぶりや健康状態等を報告し、2ヶ月に1回手紙での報告も行っている。事業所便りと法人便りを各年2回発行し、家族へ郵送している。金銭管理については、利用料や預かり金は月1回、小遣いの収支は不定期に、家族へ報告している。</p>		
9	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>来訪時の声かけや運営推進会議等で、意見・要望をいただく機会を設けている。第三者相談窓口については玄関に連絡先を掲示しており、契約時等に説明を行っている。意見箱も玄関に設置している。</p>		
10	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>2ユニット間を職員がローテーションで勤務する体制を取っており、やむを得ない職員の異動や退職が生じて、ケアに支障がないようにしている。職員が交代する場合は、最終日にみんなで茶話会を開き、送り出している。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>採用にあたっては、公平性を持ち、性別や年齢で採用対象から排除しないようにしている。人事考課を取り入れ、職員育成を図っている。職員からサービスの提案ができる環境を管理者、主任等は提供し、能力が発揮されるよう配慮している。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>運営者・管理者は人権教育の重要性を認識しており、利用者及び職員自身に対する人権の尊重を重んじ、全職員で毎日理念を唱和し、内部研修や月1回の会議等においても話をしている。</p>		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修に参加する機会を設けており、内容を全職員で共有できるよう会議で報告する仕組みがある。基礎介護の実習、認知症の理解等、内部研修が年間を通して実施されている。また法人内で各種委員会があり、人事交流を行う等の工夫を行いながら職員の育成に努めている。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地区の居宅支援事業者連絡会議のグループホーム部会に加入しており、外部研修への参加時の同業者の交流は図れているが、それ以外での交流の機会の設定を検討している。</p>	○	<p>他事業所と研修時以外にも交流する機会を設け、更なるサービスの質の向上に努めてほしい。</p>
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前に事業所の見学、自宅訪問等を行い、馴染みの関係を築くよう家族等と相談しながら行っている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の味付け・配膳・後片付け、洗濯物干し、草取りや野菜作り、正月飾り等利用者の得意分野で力を発揮してもらいながら、職員と利用者がともに過ごし、支えあう関係を築いている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々の関わりの中で利用者に声をかけ、一人ひとりの思いや希望の把握に努め、支援している。また、意思疎通が困難な利用者には、生活歴・家族の話・利用者の様子から情報を得て利用者本位の支援に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員が、家族の意見・要望、職員の意見等を反映しながら、より状況に即した利用者の個別具体的な介護計画を作成している。家族が確認した署名、押印がある。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	管理者、職員、栄養士、理学療法士等が参加し、6ヵ月毎にケア会議で協議し見直している。また状態が変化した場合にはその都度計画を見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者が入院した際は、利用者を見舞い、家族・医療機関と連携を図り、早期退院に向けて取り組んでいる。通院や送迎等必要な支援は行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族等の希望に応じて、今までのかかりつけ医や事業所の協力医院への受診、他科への受診、眼科、歯科の訪問診療の支援も行っている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方について、家族に相談を行うなどし、利用者の意向を大切にしながら、家族・かかりつけ医と話し合いを行い、全員で方針を共有している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねることがないように、言葉かけや対応に配慮している。法人事業所内のサービス評価委員会を活用しながら言動の改善にも努めており、個人情報の取り扱いについても内部研修を実施している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には一日の流れはあるが、一人ひとりの体調等に配慮しながら、その日その時の気持ちを尊重して支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	厨房で調理されたものを、利用者と職員と一緒に盛り付けをしている。夕食は、副菜を事業所で調理し、職員と利用者が一緒に食べている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴が出来るように努めており、利用者の希望・状態により柔軟に入浴の支援を行っている。入浴拒否の場合は、言葉かけや対応を工夫し支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者のできることや得意なことを把握し、菜園、干し柿づくり、歌、エレクトーン演奏等、楽しみごとを含めて一人ひとり支援している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者の状況や希望または天候等に配慮して、概ね毎日の散歩や食材の買物、季節ごとのドライブ、年数回の外食等、戸外に出られるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、居室や玄関の施錠はない。職員は利用者の外出傾向を把握しており、見守りや付き添いを行っている。法人内の他事業所の職員にも情報提供し連携が取れている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを整備している。年2回避難訓練を実施し、2カ月に1回の防災訓練と救命訓練を事業所内で内部訓練している。住民非常用食料や飲料水、備品等を準備している。現在、地域への協力依頼を検討中である。	○	地域住民に働きかけ、参加や協力を得ながら、避難訓練等を実施してほしい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量及び水分摂取量の記録が全利用者分ある。献立や調理は管理栄養士が作成しており、利用者の状態に応じた形態の食事を提供している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は掘りごたつや畳敷きの空間がリビングに造られ、さりげなく貼り絵や生け花等が飾られ、落ち着いた家庭的な雰囲気である。利用者には不快にならないよう、テレビの音量や職員の声等は配慮されている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、利用者の馴染みの小物や家具を持ち込み、家族の写真等を飾っている。利用者にあわせ、その人らしさを尊重し、本人が居心地よく過ごせるよう事業所は配慮している。		

※ は、重点項目。